

交流集会「被ばく医療における看護師の 役割について考える検討会」

Opinion exchange meeting on the role of nurses in the field of radiation exposure medicine

新川 哲子¹ 松成 裕子² 吉田 浩二¹

今村 圭子² 浦田 秀子¹

Tetsuko SHINKAWA¹ Yuko MATSUNARI²

Koji YOSHIDA¹ Keiko IMAMURA² Hideko URATA¹

1 長崎大学大学院医歯学総合研究科

2 鹿児島大学医学部保健学科

1 Nagasaki University Graduate School of Biomedical

2 Kagoshima University Faculty of Medicine School of Health Sciences

原子力災害医療の実施体制が明確となり、看護師の放射線および原子力災害医療に関する知識の習得が重要となっている。そこで、本交流集会では、原子力災害拠点病院看護師の知識・意識の現状調査をもとに、今後、看護師に対する被ばく医療に関する教育研修の進め方について検討した。話題提供者は、長崎大学病院看護師・長崎大学高度被ばく医療支援センター委員の井手貴浩である。井手は、自身が行った調査結果を1. 看護師の放射線に関する知識は、原子力災害医療はもちろんのこと、放射線の基礎的知識も低いこと、2. 放射線に関する関心については、年齢が高くなると関心が低くなることを説明した。

参加者から、「教育の立場であるが、放射線に関する関心を高めることが難しい」「原子力災害拠点病院の看護師は、自分とは関係がないと思っている。そういう人に教育を行うのは難しい」など、放射線に関心が少ない現状が浮き彫りにされた。

検討会の講師として、環境省の山口拓允先生、鹿児島大学の松成裕子先生、長崎大学の浦田先生、吉田浩二先生、山田裕美子先生がそれぞれの立場から助言があった。環境省の山口先生は、「放射線について知る機会を作ることが必要である。環境省は、研修会の企画、講師の派遣等積極的に実施しているため活用してほしい」、松成先生から、「関心があっても日常の業務との兼ね合いから研修を受けられない人もいる。そのため、周囲の環境を整える必要もある」、浦田先生から、「教育の方法について考える必要がある。放射線看護学会の理事長が提言されたように、看護基礎教育と現任教育の一元化についても考えたほうがよい」、吉田先生から、「とにかく、放射線について伝え続けることが必要であり、興味を引く研修のネーミング、演習の内容を考える」、山田先生から、「新人など研修に参加しやすい環境作りが必要である」など、貴重な助言があった。最後に、話題提供者からは、若い人に関心が高いのであれば、若い人にターゲットを絞って研修を行ってもよいので

はないかと、調査結果をまとめた。

被ばく医療における看護師の役割は重要であり、放射線に関する幅広い知識が求められる。今回の検討会でも、まず放射線に対する関心を高めるという共有の認識が得られた。難しい課題ではあるが、臨床、教育現場、行政の立場で今やれることを継続することが重要だと考える。本テーマでの交流会を次年度も企画したい。